

第35卷・第10号

昭和28年5月15日第3種郵便物認可

昭和62年10月1日（毎月1回1日発行）

# 牧草園藝



# 芝生・植生用の草種と品種

## 〈寒地型芝草〉

### ケンタッキーブルーグラス

ブルーグラス類の中では最も広汎に使われており、寒地型芝草ではペントグラスと並んで重要な草種です。生存年限の長い常緑多年草で、葉は細く長く柔らかで、地下ほふく茎で速やかに拡がり品質の良い芝地を形成します。耐寒性は強いが耐暑性・耐病性では品種間差が大きく、暖地では適品種の選定が重要なポイントとなります。

### トールフェスク

トールフェスクは暑さ・寒さに強く、やせ地でも良く生育する極めて丈夫な草種で、そのためのり面保護等の植生用として全国的に広く利用されています。近年、芝生用として品種改良が進み、「スノートF」のように、わい性で密度の高い品種ができたため、芝生用として、ゴルフコースのラフやティグランド、運動場等での利用が増えています。

### ペントグラス

ペントグラスは常緑性で、冷涼な気候を好む寒地型芝草の代表草種です。多少ほふく性のある株型で、タイプ品種によってほふく性の強弱が異なり、極度の低刈りや頻繁な刈込みに耐え、緻密で美しい芝地を形成します。ゴルフコースのグリーンを中心に管理の行きとどく高級庭園などで重宝がられています。暖地でワインターグリーンとして利用する場合は、高温多湿時の殺菌剤散布が不可欠で、逆に積雪寒冷地帯では越冬前の雪腐病防除が必要です。

### クリーピングレッドフェスク チューイングフェスク

クリーピングレッドフェスク、チューイングフェスクは細葉のフェスク類の中では中心的な草種で寒地型芝草の中では高温、旱ばつにも比較的強く、芝地においてはケンタッキーブルー等と混播されゴルフコースのフェアウェイや競技用芝地で活躍し、植生の分野でも草丈が低いこと、日陰にも耐えるなどの特性が好まれています。クリーピングレッドフェスクとチューイングフェスクの違いはクリーピングがほふく型であるのに対し、チューイングがほふく茎を持たないことで、それ以外にはほとんど区別がつきません。

## 〈暖地型芝草〉

### センチピードグラス

特性：草丈が低く、発芽までの日数はかかりますが、温度上昇とともに旺盛な生育をします。ほふく茎の伸長が速やかで、雑草の侵入を寄せつけず、維持管理も容易です。葉色は淡緑で、耐病性強く、日陰や瘠地などの適応性も良好。秋に入り温度が下がると、葉身に赤紫色があり、冬期は休眠します。耐寒性は強くないが関東で越冬できます。

利用：ノシバより発芽良好で造成が容易です。ルフ場をはじめ、公園での芝地、植生用として広範囲に利用されています。

### ノシバ

従来のノシバ種子は発芽率が極めて低いもの（20%前後）でしたが、休眠を化学処理で打破した驚異的な高発芽率（60%前後）種子が開発・供給され、たねまきによる広範囲な芝地造成が可能となっています。高麗芝や西洋芝と比較し、葉やほふく茎はやや粗剛ですが、土壤を選ばず、踏圧に強く、ブラウンベッチなどの病害にも強く、気候的な適応性も広い特性を有しています。ゴルフコースのフェアウェイほかあらゆる芝地での利用が可能ですが、播種量は5～7月に限定されてきます。

### バミューダグラス

旺盛な地上及び地下茎で増殖し、日本芝より速々かに芝地を造成します。品種改良が進んでいますが、種子で造成できるものは「コモンバミューダ」「ショートバミューダU-3」等に限られてきます。種子で造成できることは使い道が豊富で、ゴルフ場から、法面保護まで広く活用されています。耐暑・耐旱性強く、発芽もスムーズで育てやすい草種で、芝地用には「U-3」、植生用には「コモンバミューダ」が適します。

### パヒアグラス

耐暑性が極めて強く、深根性で乾燥した砂地にも生育できる暖地多年草です。草丈はやや低く、短くほふく茎を有し、芝地より植生としての利用性が高く、牧草としては放牧利用が行われています。種子はもう質のえいを持っており、発芽にはやや日数を要します。耐寒性がやや弱いので西南暖地が中心となります。